

第5回 女性連合・私たちのひろば 記録

2023年1月14日(土) 10:00~11:40

司会：本多依子(副会長)

記録：大竹千賀(副会長)

参加数：委員・役員含め 21名

1. 開会あいさつ 司会
2. 祈り 司会
3. 動画視聴

11月26日に連盟主催の「みなこれ」で行われた「これから国際宣教」についてのプレゼンテーションの動画を共に観る。

4. 質問・意見・分かち合い

連盟の国外伝道という今まで取り組んできた働きから国際宣教という考え方に転換していくということが大きなテーマとして語られていたと思います。身近なところにも国際というつながりがあるという宣教です。そこをとらえていくということが打ち出されています。

今日の動画を見られて、女性連合がどう立っていくのかということをつかち合えたらと思う。

- ・ プレゼンテーションも発表の内容も連盟だけではなく、「これからの国外伝道委員会」の中には女性連合からの派遣の3名が入って共に考え進めてきたもの。「国外伝道=宣教師派遣」ではなく、この日本の中の私たちの教会にも国際的な出会いと交わりが増えている。大きな国際宣教につながる。私たちの使命としてきた「国外伝道」の考え方も、この時代にあった「国際宣教」へと、国内の教会で担っていくという考え方、枠組みの変更。役割分担(女性連合が推進し集め、連盟が決定・実施するという)をあらため、これからは連盟と女性連合が「国際宣教委員会」をもって協働し、教会全体で担っていけるというもの。委員会は、つなぐ役割をするだろう。
- ・ 女性連合も「世界」と言う時、「日本を含む世界」を考えてきた。私たちが立っている足元も大切にしたいと思う。まさに「国際宣教」という考え方につながるかと思う。
- ・ 「国際宣教」の働きを通して、やはり女性たちが視野を広げ、学び、考え、共に祈り、成長していければ。世界祈祷週間献金をどうとらえていったらいいのかを学びたいと参加した。今まで何十年と、宣教師を支えるという思いで続けてきているので、発想を変えていくには、時間がかかる方もあると思う。不当な扱いをされている人が教会に来られ、祈って何ができるか考え関わることができ、教会の業技になっていった。女性連合のメンバーであり連盟にかかわる一人一人である。私たちが遣わされた者として世界宣教に参加するということへ、発想を変えていくということを学んだ。
→ 今まで女性連合が推進し祈りを一つにしてきた。ある意味国際宣教委員会と一緒にしていく。活動にコミットしたいという人が増えている。女性連合が手放すというのではなく、教会全体が、共に考え、推進し、一緒に決め活動していくという形をとっていく。「みなこれ」で「日本全国の教会が国際教会になる。」と言われた方があった。世界との交わりをなくすわけではなく、ささげられた献金から、短期宣教師など可能な形で支援していく。青少年育成。女性連合独自支援は続けていきたいし、日本国内での関わりを含め、支援しているところに出かけていき直接出会っていきたい。
- ・ 私の心がわくわく感動している。50年経ってここにたどり着いた思いである。これまで疑問を持たずに来たが、時代の転換点に立っていると思う。変わる時に来ているのだと思う。連盟のメンバーであって、女性連合のメンバーであること、そしてジェンダーのこともひとつになっていくことで、独自性、独立性を感じさせられている。大きな時を迎えたと思う。宣教師を送っていれば世界宣教を行っているかのように思ってきたが、今、世界を見ると世界のことを祈らずにいられない。神さまの目から見たら世界は一つ。私たち一人一人が遣わされた使ものなのだ。感動して「みなこれ」からこういう道があったと、気づかされた。
- ・ 大きく世界祈祷週間が変わってくる。バプテスト世界祈祷週間=宣教師の働きを支えるというのが皆の意識にある。動画の中で、私たちが遣わされたものとして参加するという言葉があったが、宣教師がではなく、私たちがという意識を持っていきたい。

- ・今までは宣教師を派遣するための経済的援助し、すべてを託していたが、私たち、教会で進めていかなければならないというのは大変だと思う。内容が見えてくるのだと思う。新しい視野が開けてきた、私たち自身も考え方を改め前進していかなければと思う。
- ・時代の転換点に立っているが、ずっと続いていくことであり変わり続けていくことなのだろう。国内・国外伝道から国際宣教にかわる、言葉が変わることは内容も変わるということをも女性連合の方々とどう共有していくか。私の足元、私の隣をきちんと理解して、一方的な説明ではなく自分で実感できるような話し合いをしていけたらいいと思う。
- ・国際宣教へと変わっていくことも、理解できた。今まで派遣されていたところとのつながりは続けていき、支援できる場所は支援していけたらいいのかなと思う。国際宣教委員会の働きもやりながら、変わりながら示されていくのではないかなと期待と希望をもって祈っていきたい。
- ・毎日の出会いの中で、いろいろな国の方との出会いが国際宣教といわれるが、地方の教会であれば大きな流れの中では難しいかなあと思った。隣人として、生活のこととして理解することができるのかなと思う。国際宣教委員会とどう関わっていけるのかなと思った。小さな教会ではできないが、青少年育成などプログラムがあれば関わっていけるし、そこから気づきが与えられるのだと思う。ひろばはいつまで行っていくのか聞きたい。(ひろばは来年度も奇数月第2土日の予定)
 - 国際的な交わりや活動をおこなっている教会の取り組みに支援していくイメージがあるかと思う。全国の教会に共有し、つながりともに国内で起きている出会いや交わりを祈り支えていく。青少年育成については、委員会でツアーなどを企画し、募集するイメージではないかと思う。具体的にはこれから、意見やアイデアをいただきながらみなで作り上げていくことになると思う。
- ・個人的には変わることには抵抗はないが、全体的にふわっとしてどう変わるかわからない。「時間をかけて」ということですが、スピードの時代なのに変わっていくのに時間がかかるかなと思う。こう変わるから～といわれると、ああこう変わるんだ～とどう対応しようか考えるほうがやりやすい。人を通して世界祈禱に関わっていたことが、私たち自身が主体的に参加する。主体的に何ができるのかなと思う。女性連合が抱えている他の課題も含め何がどう解決されるのか。
 - 仰る通りある程度のスピード感が必要と思うし、トップダウン的なほうが楽だと思うが考えなくなる。みんなが悩み考え創り出していく。次の世代も含め、受け身ではなく、自分の事として主体的に関わっていける活動(信徒運動体)でありたい。バプテストとしてそのプロセスが大切では。いろいろ話し合いながら最終的には総会で決議していく。女性連合、女性会で互いに励まし合ってきた、このネットワーク・つながりは続けたいという声がこれまでの「ひろば」でも聴けた。大切に次世代へつなげていきたいと思う。
- ・世界祈禱週間はこれからも続いていくのか。はっきり変わるとき総会までは、このままなのか。
 - コロナになって、女性連合の目標額、教会の目標額を立てて、達成しようと頑張ってきた。コロナ渦で、これまでも頑張ってきたけど、もう無理・難しいと思った。適切な目標の枠があったら、また頑張れる。揺らぎがあった中で、地に足をつけて焦らずに考えていかなければならないと思った。
 - 変化のタイミングが非常に難しい。先のことを決議できない間の2-3年間はこれまで通りでいいのか。少しずつでも変われるところは変わりながらになるか。祈禱週間も高齢化の中で「これ以上がんばるのは無理」という声はある。この転換点の中で、祈禱週間のもち方についても土台から考えなおしていくことになるだろう。今まで当然だったことがこれからも当たり前、ではなくなると思う。
- ・『世の光』を読んだりして、転換期のいろいろな問題に気づかされた。一人一人が常に考えていかなければならない。身近でできることは、教会の中で、海外の方とかかわるのが第一かなと思う。
- ・個人のこと、家族のこと、教会のことまでは自分のこととして考えられるが、その先のこととなると自分のこととして考えることが難しい。国際宣教委員会をたちあげていくということだが、具体的にどういうことを支えていくのか。どういう働きをしていくのか具体化されていったほうがいいのではないかな。献金が集まってから、送り先を考えるのかではなく、働きありきの予算建てをしていくと献金のアピールがしやすいのかと思う。共有方法が難しい。共有(広告・宣伝)が得意な方を募集しては。
- ・国内・国外伝道から国際宣教に変えていき それぞれの教会の取り組みに目を向けて、支えていくと聞いたときに、礼拝をインドネシアの方達(月1~2)と、女性会の中にはケニアのための働きを支えている方がおられ、分か

ち合っていたので、女性連合が支援してくださることにつながればとわくわくした。

→ 皆さんから情報や取り組みをいただけたら、『世の光』やなどに掲載していただけたらと思う。

5. 事務局からのご案内

- ・ 女性連合のホームページ「これからの女性連合」をご覧ください共有していただきたい。
- ・ 本日の「みなこれ」のPPTも観られます。皆さんで観てください。
- ・ 全国小羊会キャンプ（オンライン）3/25 13：30～15：00
- ・ 全国小羊会リーダーの集い（オンライン）2/12 14：00
- ・ 『世の光』Web版 3月からオープン・申込開始予定。
- ・ 2月6日 婦人連合が50年前に発会総会・（東京バプテスト教会で）

6. 祈り 吉高路(会長)